

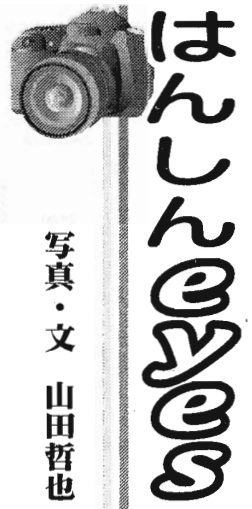
面より低い「海拔0メートル地帯」のうえ、運河沿いに工場が密集して荷揚げ場もあるため、閘門は不可欠で、半世紀にわたり市民生活を防災面から支えてきた。

## 尼崎閘門

パナマ運河方式の尼崎閘門(尼崎市東海岸町)は、街を高潮の脅威から守る「海の防人」だ。閘門とは、水位の異なる場所に設置される水路状の施設で、船が航行する際、二つの水門を交互に開閉することで、潮位の高い海水が運河に流入することを防ぐ。尼崎は工業用に地下水をくみ上げて地盤沈下したため、市内の約3割が海水

建設のきっかけは、1950(昭和25)年、阪神間を襲ったシェン台風。高潮が防潮堤を越え、海岸線から4キロ離れたJR東海道線まで浸水した教訓から、高潮を防ぎながら、船の出入り口を確保する閘門の建設に着手。54(昭和29)年に第1閘門が、10年後に第2閘門が完成した。2基とも幅17メートル、長さ90メートル

国内最大級。第1を入港、第2を出港に使い、500総トンの船が通過可能。予測される東南海沖地震の津波にも耐えられる構造だという。  
 県は02年に愛称を公募し、英訳のロックゲートから「尼ロック」に決め、一般市民に親しんでもらうため、施設見学(平日午前9時〜午後5時)も実施している。  
 予約は県尼崎港管理事務所(06・6412・1361)。阪神尼崎駅から市バス「尼崎港行」に乗り、「東海岸町」下車、徒歩10分。



10

# 海の防人・尼ロック



1日平均30隻が通過する尼崎閘門。左が海側、右が運河側で、船がある真ん中の閘室で水位を調整する。両開き式の閘門はレオナルド・ダ・ビンチが考案したと言われている